

「捕一投」の運動習得を企図したベースボール型ドリルゲームの開発とその有効性の検討
— 高学年児童を対象に —

都城市立江平小学校 宮崎大学等派遣研修生

鍋西 幸治

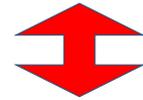
小学校学習指導要領

低学年（1～2年）及び3年	中学年（3～5年）及び4年	高学年（5～6年）及び6年
<p>目標</p> <p>(1) 運動を多量に行い、健康な身体を築くことができるようになること。その過程において、身体的な成長を促すこと。また、その過程において、身体的な成長を促すこと。また、その過程において、身体的な成長を促すこと。</p> <p>(2) 運動を多量に行い、健康な身体を築くことができるようになること。その過程において、身体的な成長を促すこと。また、その過程において、身体的な成長を促すこと。</p>	<p>目標</p> <p>(1) 運動を多量に行い、健康な身体を築くことができるようになること。その過程において、身体的な成長を促すこと。また、その過程において、身体的な成長を促すこと。</p> <p>(2) 運動を多量に行い、健康な身体を築くことができるようになること。その過程において、身体的な成長を促すこと。また、その過程において、身体的な成長を促すこと。</p>	<p>目標</p> <p>(1) 運動を多量に行い、健康な身体を築くことができるようになること。その過程において、身体的な成長を促すこと。また、その過程において、身体的な成長を促すこと。</p> <p>(2) 運動を多量に行い、健康な身体を築くことができるようになること。その過程において、身体的な成長を促すこと。また、その過程において、身体的な成長を促すこと。</p>
<p>内容</p> <p>1. 身体運動</p> <p>(1) 身体運動の楽しさを体験すること。</p> <p>(2) 身体運動の楽しさを体験すること。</p> <p>(3) 身体運動の楽しさを体験すること。</p>	<p>内容</p> <p>1. 身体運動</p> <p>(1) 身体運動の楽しさを体験すること。</p> <p>(2) 身体運動の楽しさを体験すること。</p> <p>(3) 身体運動の楽しさを体験すること。</p>	<p>内容</p> <p>1. 身体運動</p> <p>(1) 身体運動の楽しさを体験すること。</p> <p>(2) 身体運動の楽しさを体験すること。</p> <p>(3) 身体運動の楽しさを体験すること。</p>

ベースボール

攻撃側

ホームランを打ちたい。ヒットを打ちたい。
フィールドに転がってほしいと願う。



守備側

ゴロを適切に処理しなければならない。

捕る  投げる

先行研究「捕る」「投げる」のドリルゲーム・トレーニング

学年	ドリル	学習目標	
低学年	投	<ul style="list-style-type: none"> ・ 握って ・ ワンパン・キャッチボール ・ カゴ投げ ・ セミで投げ ・ 両足上げ投げ ・ コルフォーム ・ 振り向きスロー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二またいバンド投げ ・ カニ二重投げ ・ バトン投げ ・ 玉投げ ・ 玉投げ ・ 玉投げ ・ バトンスロー
	捕	<ul style="list-style-type: none"> ・ バウンドキャッチボール ・ 両手ハグしおさめ ・ ロケット投げキャッチボール ・ 投げ向きスロー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トフボンドロケットキャッチボール ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ ステップスロー
中学年	投	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二またいバンド投げ ・ 紙コップ投げ ・ スリッパ投げ ・ クロススタックフィールドテンプ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カニ二重投げ ・ バトン投げ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ
	捕	<ul style="list-style-type: none"> ・ スリッパ投げ ・ クロススタックフィールドテンプ ・ 両手キャッチ ・ クロススタックフィールドテンプ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両手キャッチ
高学年	投	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹投げ ・ バトン投げ ・ ロケットショットバンド 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二またいバンド投げ ・ カニ二重投げ ・ ロープフェイスロー
	捕	<ul style="list-style-type: none"> ・ 握って ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ ・ 両手キャッチ

研究の目的

ゴロのボールを「捕る」と「投げる」をスムーズに連結して生じるようなドリルゲームを開発し、その有効性を検証しようとした。



研究方法1

1. ゴロの「捕一投」の運動経過と動作パターンの類型化

先行研究を参考に、ベースボール型のゲームにおいて頻出するゴロの「捕一投」運動経過のモデル作成と動作パターンの類型化を試みた。

研究方法2

ドリルゲームの開発と有効性の検証

(1) ドリルゲームの開発

「捕る」動作の終末局面と「投げる」動作の準備局面とが融合した動きになることを企図したドリルゲームを開発した。

実際のゲームを想定し正面に返球する場合と斜めに送球する場合の二種類を開発した。

ゴロの「捕-投」の運動経過と動作パターンの類型化

動作パターン	捕球の性質	準備の性質	投球時の足の踏み出し	ステップの様子	学年段階
1	上から手を差し上げるようにして捕る。	無し	無し	無し	
2	両側面	両側面	両側面	一歩 (両側面)	
3	両側面	両側面	両側面	一歩 (両側面)	【低学年】両手や片手で捕るボールを投げる。
4	体の正面で捕る。	両側面	両側面	一歩 (両側面)	【中学年】ボールの位置に両脚を反対足の踏み出し。
5	両側面	両側面	両側面	一歩 (両側面)	
6	両側面	両側面	両側面	一歩 (両側面)	
7	両側面	両側面	両側面	一歩 (両側面)	【高学年】打球方向に踏み出した際、右ムネにボールをタイミングよく投げ渡す。

研究方法2

(2) ドリルゲームの実践と有効性の検証

1) ドリルゲームの実践

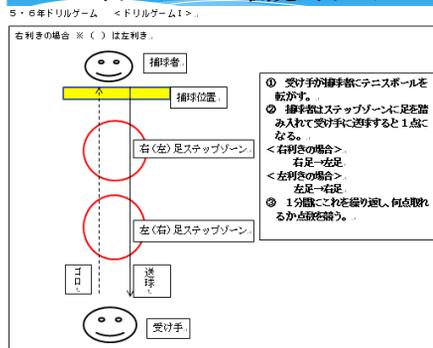
宮崎県内E小学校5・6年生児童11名
(6年男子5名、5年女子4名、6年女子2名)

(1) で開発したドリルゲームⅠを5日間
(1日につき1分間×5回)



(1) で開発したドリルゲームⅡを5日間
(1日に2周×5回)

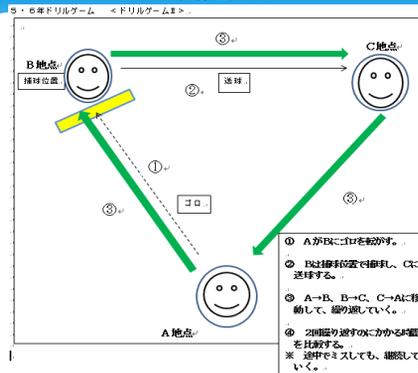
ドリルゲームの開発 ドリルゲームⅠ



ステップゾーン



ドリルゲームの開発 ドリルゲームⅡ



動作パターンの変容 正面への「捕一投」動作

ドリルゲーム前



ドリルゲームⅠ後



ドリルゲームⅡ後



動作パターンの変容 左前方60度への「捕一投」動作

ドリルゲーム前



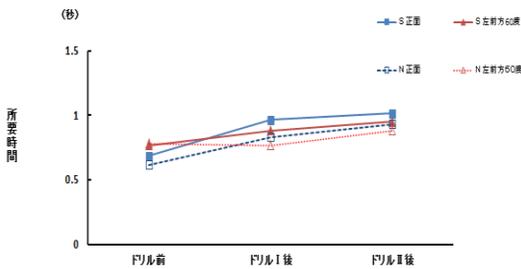
ドリルゲームⅠ後



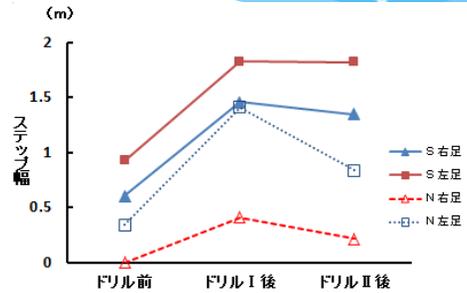
ドリルゲームⅡ後



捕球して送球するまでの所要時間



ステップの変容



まとめ

- (1) ゴロの「捕一投」運動経過と動作パターンの類型化を試みたことにより、ゴロのボールを捕って投げる一連の動きを評価する基準を提案することができた。
- (2) ゴロの「捕一投」運動習得のドリルゲームを開発し、実践した結果、対象児の「捕一投」運動の動作パターンに向上が認められ、「捕る」と「投げる」の局面融合が見られた。
- (3) 開発したドリルゲームの実践により捕球してから送球するまでの時間が長くなったのは、その間の上半身や腕、足の動きが大きくなったことが原因であると考えられた。これらの結果の背景には、ドリルゲームⅠにおけるステップの足の運びをスムーズにするために設けられたステップゾーンの影響のあることが推測された。

ご清聴ありがとうございました。

